

東濃地区の子育て・親育ち通信

家庭教育なう

No.6

2024年9月発行

恵那県事務所振興防災課 家庭教育担当 大島
〒509-7203 恵那市長島町正家後田 1067-71

TEL 0573-26-1111(内線 208)

FAX 0573-25-7129

MAIL oshima-akihiro@pref.gifu.lg.jp

「家庭教育なう」は恵那県事務所のHPからご覧いただくことができます。QRコード→



瑞浪市 PTA 連合会および子育て委員会主催 教育講演・懇談会

瑞浪市 PTA 連合会 教育講演・懇談会

デジタル・AI ネイティブたちの心を育てる

～アナログを知る私たちにできること～

日時 令和6年7月23日(火) 19:00~20:45
講師 浅間 正通 教授(東洋大学人間科学総合研究所客員研究員・静岡大学名誉教授)
参加者 瑞浪市小中学校職員、瑞浪市 PTA 子育て委員、青少年育成市民会議等63名



講演→懇談会で、「学びの再構築」「つながり」づくり

浅間先生の講話で学ぶ参加者



その後テーマについて意見交流する参加者



瑞浪市は毎年、PTA 連合会、子育て委員会が主催して教育講演、懇談会を行っています。今年は、浅間正通(東洋大学客員教授・静岡大学名誉教授)先生をお迎えして、「デジタル・AI ネイティブたちの心を育てる～アナログを知る私たちにできること～」をテーマに講演していただきました。

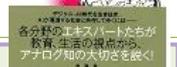
講演後、小グループにわかれてテーマに即した懇談会をもちました。講演の内容は、国内の教育の気になる話題から海外(主にフィンランド)の教育事情など多岐にわたり、大学の先生のお話らしく、アカデミックで、エビデンスに基づいた内容でした。講演内容の一部を紹介します。

◇アナログとデジタルの相違について実験してみました

大学の講義で学生に自己紹介を課題として出しました。Aのグループには用紙に自筆で記入しての提出、Bのグループには、パソコンで作成して、メールで提出をさせました。Aは「アナログ」B「デジタル」での課題提出です。どんな違いがあったと思いますか。提出した課題の傾向として、Bのメールによる提出は、誤字、脱字が多くありました。また、自己紹介の中に、要望、要求(テスト簡単にして下さい等)が多くありました。Aの用紙による提出での傾向は、書き直した後(消しゴムのかす)がよく見られました。これらをどう解釈したらよいでしょうか。

それは用紙(アナログ)の方が、(デジタルより)相手意識を感じているということです。メールという機器が間に入ること、相手意識が薄れるのではないかと考えられます。相手意識が減少するから、内容もついつい要望、要求的な内容が増える傾向がみられます。これが、ひどくなるといわゆる「炎上」という状態につながるわけです。

従来のアナログによる2者関係が、メールという機器を間に会することで、1.5者ぐらいの関係になってしまうのです。相手意識が希薄になり、読んでどんな気持ちになるか推し量ることなく、相手に送りつけてしまう傾向が増えるということです。デジタルの活用では、こうしたアナログで大切にしてきたこと(他者意識を大切にすること)を踏まえることが大事になってきます。(講演内容を専門職が文章に起こしました。詳しくは、右のご著書をご覧ください。)



【参加された方と交流しました】

・青少年の主張大会の審査の際に、この主張原稿と AI について話題になりました。今年度は、そうした AI の使用を制限するようになりました。浅間先生の言われるように AI の利用により、「思考する」ことが減ってしまうことが心配になります。

【ここを学びたい】

・工夫した運営形態(講演+懇談会)

講演の後、懇談が設定されることで、自分の学びが確かめられます。また、他の人の感想を聞くことで、新たな気づきや、人と人との「つながり」もできます。

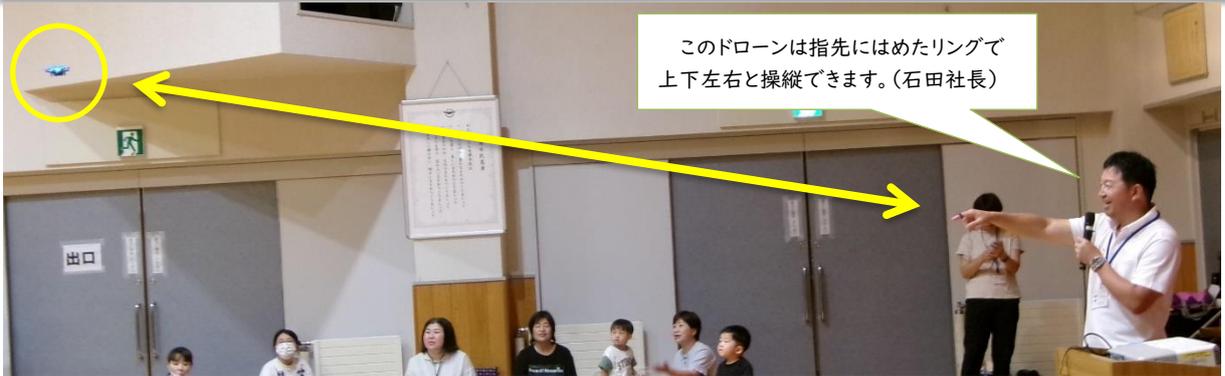
恵那市恵南乳幼児学級 上矢作に行ってみよう！

工作・ドローン体験

日時 令和6年7月10日(水) 10:00~11:30

講師 石田宏樹さん(株式会社 ROBOZ 社長)とスタッフのみなさん

参加者 恵那市岩村・山岡・明智・串原・上矢作の乳幼児親子 12組



このドローンは指先にはめたリングで上下左右と操縦できます。(石田社長)

子どもたちの未来の可能性をドローンがひらく

恵那市は本年度、乳幼児学級の再編を行い、市内3つの地域の学級で実施しています。(昨年度までは、12か所の地域で実施)今回は、恵那市南部の恵南乳幼児学級を紹介します。この学級は恵南地区5地域を回る形で計画され、今回は上矢作地区が担当です。上矢作は「ドローンのまち 上矢作」ということで、ドローン体験を取り入れた乳幼児学級でした。講師は石田宏樹さんです。石田さんは、ドローンを取り扱う会社 ROBOZ の社長で、上矢作小、中学校でもドローンのプログラミングを教えているらしいです。今日は、乳幼児親子にもわかりやすいようなステキな内容を準備してくださっていました。



恵那市乳幼児学級担当の太田さんによる工作活動の様子です。

本日の乳幼児学級の主な内容

- 1) あいさつ 手遊び
- 2) のびっこ通信による子育て情報紹介
- 3) 工作(カニさんを作りました)
- 4) ドローン体験として、以下5つの内容がありました。



20年後の未来の動画、ドローンのデモ、ドローンプログラミング、ドローン操作体験、ドローンショー



ドローン操作 輪くぐり



ドローンによる記念撮影

【参加された方の感想】

- ドローンをそれぞれ操作させてもらうのはとても楽しかったです。子どもには無理かなと思いましたが、手を添えて一緒にできたので楽しかったです。
- 「20年後の未来」の動画を見てほんとうに20年後、こんなふうになるのかなと想像しただけでとてもワクワクして楽しかったです。これまで想像もしたことなかったので、衝撃を受けました(笑)。ドローンショーはとても素敵でした。

【ここを学びたい】

- ・地域の特色を活かして
「ドローンのまち 上矢作」の特色を活かした乳幼児学級の内容でした。地域の会社が、未来をにいう子どもを育てることに協力しています。
- ・未来に思いを馳せる
子どもたちが生きる未来は、夢のように可能性の広がる世界。ドローン、AI など駆使して現在からは予想もできない世界になっている可能性もあります。ドローン体験でそのイメージがふくらみました。

土岐市立土岐津中学校 家庭教育学級 講演会、茶話会
整理収納で心もスッキリ

日時 令和6年7月12日(金) 10:30~11:30
 講師 森口 ゆう子さん(整理収納アドバイザー)
 参加者 土岐津中学校保護者10名、土岐市教育委員会1名



子育てに奮闘している今だから聞きたい整理収納のコツ

土岐津中学校 PTA 家庭教育委員会では、「整理収納で心もスッキリ」をテーマに「整理収納アドバイザー森口ゆう子先生」をお招きしてワークショップ形式の家庭教育学級を実施しました。

この家庭教育学級開催のきっかけを曾根家庭教育委員長に伺いました。委員会メンバーの中に、土岐津中学校の同級生がみえて、そのつながりから、森口さんを紹介していただけたそうです。メンバーと「テーマ:整理収納について」の話をしたところ、「聞いてみたい」という意見が多くあり、この企画が実現したそうです。お話の内容は、日頃から子育てで忙しくしているお母さん方にピッタリの内容で、参加者の満足度も高かったことと思います。



曾根家庭教育委員長の挨拶の様子

整理収納アドバイザーとは?

片付かない原因や問題点を見つけ出し、モノとの関わり方から見直すことで暮らしを豊かにしていく、整理収納のプロフェッショナルです。

<内容>

- 1 曾根家庭教育長 挨拶 講師の先生紹介
- 2 森口先生から【講話の概要】

○お片付けは最優先事項
整理収納で生まれるゆとり

○散らからないために
管理できるモノの量
戻しにくい仕組み

○片付けピラミッドを意識

順番を守ることが大事、土台(整理収納)をまずは作っていく

○整理収納の方法

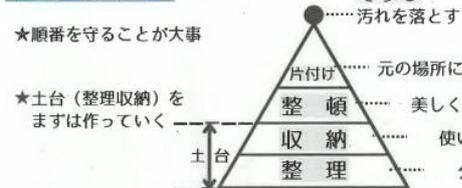
- 1) 全部出し 2) 分ける・減らす
- 3) 収める(使う場所、高さ和使用頻度、アクション数)

○整理収納の向き合い方、ポイント

毎日コツコツ/今の自分を軸に/まずは自分から/家族には無理強いない

- 3 吉川教頭先生 挨拶 これからの家庭教育学級について

片付けピラミッド



【参加された方に感想を伺いました】

- ・お片付けには理論がある。小さい子どもでもできるように。という言葉に「なるほど!」と思い、自分でもやれるかも!と励まされました。
- ・自分がすでにやっていることもあったりしました。でも、忘れていたことあって、話を聞きながら、思い出すこともありました。何度聞いても、よいお話だと思いました。
- ・子どもにやってもらうのではなく、まず自分がやり続けて、その良さに気づいてもらえるようにしようと思いました。

【ここを学びたい】

- ・気持ちが楽になるお話
「一度に全部やろうとするとそれがストレスになってしまうこともあるので、最初は小さいスペースや時間を限定して行うことをお勧めします。そうして、少しずつ練習していくことで、整理収納の力もつきます。」と無理なく行うコツを教えてくださいました。聞いてホッとするお話はすごく大切です。
- ・片付け(整理収納)は、何のためにするのか?
「片付け終わった後の理想の暮らしをイメージすることが大切です。」とのこと、自分の理想の暮らしをイメージする際に、自分や、家族を見つめ直す機会になります。

伝統のPTA行事を工夫して続けています

ミナモも登場
子どもたちに大人気

多治見市立北栄小学校PTA行事 体験型 ハッピーフェスティバル (旧名 楽しみな祭)

日時 令和6年7月30日(火) 8:00~11:30

参加者 全校児童 自由参加350名 保護者ボランティア34名

協力 北栄小コミュニティスクール、ふれあい北栄(まちづくり市民会議)、
旭ヶ丘公民館、旭ヶ丘児童センター、北栄たじっこクラブ(放課後子ども教室)
土岐川観察館、北陵中学校(中学生ボランティア52名) 高校生ボランティア12名



保護者が主体的に企画・運営する伝統のPTA行事

北栄小学校には、保護者が中心となって、子どもたちと活動する「楽しみな祭」という伝統のPTA行事がありました。PTA研修委員会が主催で、児童、保護者の有志、地域の諸団体が参加し、工作、ゲームなど体験型のブースを設置し、お祭りの縁日を思わせる行事でした。子どもたちもこの行事をとっても楽しみにしていて、30数年続いていました。ただ、ここ数年、コロナ禍もあり、PTAの在り方を見つめ直す中で、この行事も形を変えてきました。そして、昨年より、名称を「ハッピーフェスティバル」と変更して実施しています。大きな変化として、主催はPTA本部役員が中心となり保護者、児童の有志をつのって、企画・運営する形をとっています。やりたい人がやりたいことをできる参加形式を大切にしたい運営です。保護者がアイデアを出し合い、工夫したブースを設営し、夏祭りの縁日のような雰囲気を大切にしたい熱気あふれる行事です。

今年も以下にある13のブースが開設され、子どもたちが自由に体験できるようになっています。それを支えるのは、本部役員・保護者ボランティア・地域諸団体・中学生ボランティア・小学生ボランティア、総勢130名を越える方々でした。



ボランティア受付の様子

開設ブース

【PTA 主催ブース】

① ヨーヨー釣り ② スーパーボールすくい ③ 射的 ④ 校内クイズ ⑤ スライム ⑥ コインおとし ⑦ おばけやしき

【地域の方の協力ブース】

① 生き物とのふれあい(土岐川観察館) ② デコクリップ・マグネット(北栄たじっこクラブ) ③ SDG'S 工作 クリアファイルでスケルトンバック(旭ヶ丘児童センター) ④ 水でっぽう(まちづくり市民会議) ⑤ トランプでババ抜き(旭ヶ丘公民館) ⑥ 輪投げ・カローリング・ダーツ・スイカおとし・ストラックアウト(コミュニティスクール)



水鉄砲 ねらって えい!



こんなに伸びるスライム



おばけやしき
大人気! 大行列!



スーパーボールすくい
どれがほしい?



クリアファイルで
スケルトンバック作り



ストラックアウト
何番をねらう?

【PTA 会長 玉井さんに伺いました】

今年も子どもたちの笑顔がいっぱいの行事となりましたが…
「ハッピーフェスティバルは、今年で2年目を迎えました。伝統の行事をみんなの力で実施したいという願いのもと、本部役員が中心となって保護者のボランティアを募り、やる気のある方々に集まっていただき、今日の開催になりました。みなさん、とてもやる気で主体的に取り組んでいただいたおかげで、一つ一つのブースのクオリティも高く、子どもも保護者も笑顔になる取り組みになりました。今日は、他の小学校のPTAの方も参観に来ていただきました。誰もが負担を感じることなく実施できるPTA行事の例として広めていきたいと考えています。」

【ここを学びたい】

・みんなの力を結集して楽しめる行事を
家庭教育委員会でも全校を対象とする大きな行事を担うことがあると思います。担当者のプレッシャー・負担感はとても大きいと感じた経験があります。そんなとき、たいへんだからとやめてしまうこともありますが、意義や意味を話し合ってみるみんなの力を結集して実施する方向を模索することも大切です。この行事も30年以上続いています。